記者発表資料

平成２５年１２月　５日
津軽ダム工事事務所

# 第９回　津軽ダム環境検討委員会　審議結果について

津軽ダム環境検討委員会は、平成１８年６月に設立後、これまで７回の委員会を開催し、津軽ダム建設事業における環境影響を総合的に評価した「津軽ダム建設事業における環境保全の取り組み（津軽ダム環境レポート）」をとりまとめ、平成２０年９月９日に記者発表を行い、津軽ダム工事事務所のホームページで公開しています。

今回の委員会では、前回委員会（平成２４年１２月６日）以降に実施しましたフォローアップ調査の結果と今後のフォローアップ調査計画について審議しました。

■開催日時：平成２５年１２月５日（木）１４：００～１６：００

■場　　所：弘前プリンスホテル　２Ｆ　孔雀の間

■出 席 者：別紙のとおり

〈発表記者会：弘前市記者会、専門記者会〉

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　津軽ダム工事事務所
電話　0172-85-3005　FAX 0172-85-3016

調査設計課長　吉田（よしだ）　久（ひさし）（内線351）
専門職　田嶋（たしま）　正樹（まさき）（内線350）

# 津軽ダム環境検討委員会　委員名簿

| 氏　　名 | 所　　属 | 役　職 | 専　　門 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 東　信行 | 弘前大学 | 准教授 | 魚類・河川生態 | |
| 海田輝之 | 岩手大学 | 教授 | 水環境 | |
| 大高明史 | 弘前大学 | 教授 | 底生動物 | |
| 小笠原暠 | 秋田大学 | 名誉教授 | 鳥類 | |
| 工藤　忠 | 日本チョウ類保全協会 | 理事 | 陸上昆虫類 | |
| 谷田一三 | 大阪府立大学大学院 | 教授 | 水生昆虫・河川生態 | |
| 原田幸雄 | 弘前大学 | 名誉教授 | 植物・付着藻類 | 委員長 |
| 檜垣大助 | 弘前大学 | 教授 | 地形・地質 | |

※五十音順

## 委員会の審議結果（要旨）

**１．大気環境（騒音、振動、粉じん等）・水環境（土砂による水の濁り）**

・粉じん等・振動・土砂による水の濁りについては、概ね基準値を下回っていた。

**【審議結果】**

・津軽ダム建設工事に伴う影響は、ほとんど無いと思われるが、今後も調査を継続実施する必要がある。

**２．動物**

**〇ユビナガコウモリ**

・目屋ダムの仮排水路トンネルに生息していたユビナガコウモリは、平成２１年１月に人工の生息施設（コウモリボックス）へ全頭移転した。

・ユビナガコウモリは、移転直後の冬眠期はコウモリボックスへ一時的に定着したものの、その後は、あまり定着していない状況となっていた。

・このため、平成２２年１０月にボックス内へ遮光板等を設置し、生息環境の改善を行った。その結果、翌年以降、再定着が確認され、冬眠期の利用個体数が増加した。

・平成２５年の調査では、本種がコウモリボックスを通年利用していることが初めて確認された。

・また、平成２５年１０月の調査では、ボックス内で生息が確認された。利用個体数は、昨年の同時期より増加した。

**【審議結果】**

・本種の利用個体数が増加傾向であることから、ユビナガコウモリの保全措置について、一定の効果があったと考えられる。さらに定着するまでには、ある程度の期間が必要と考えられることから、今後も引き続き生息状況を見守る必要がある。

**〇森林性コウモリ**

・昨年に引き続き、これまでに確認されている重要な森林性コウモリ類について、生息状況の現況把握を行った。

・その結果、本年も森林性コウモリ類の生息が確認されたことから、これらの種の生息可能な環境が津軽ダム周辺で維持されているものと考えられた。

**【審議結果】**

・引き続き、調査範囲の検討も含め、生息状況についてフォローアップ調査が必要である。

**３．植物**

**〇移植植物**

・直接改変を受ける重要な植物：１０種（ミクリ、ノダイオウ、ミチノクサイシン、サルメンエビネ、テイネニガクサ、エゾノリュウキンカ、ヤマシャクヤク、オオアカバナ、オオユリワサビ、ミチノクホタルイ）について、平成１９～２４年に移植した。

・平成２５年の生育状況調査では、エゾノリュウキンカは３箇所の移植地の内、１箇所において生育不良が確認されたため、移植地の環境改善を行った。また、ノダイオウは各移植地において、予防的措置としてヨシの刈り取りを実施した。

・その他の種の生育状況は、概ね良好であった。

・また、平成２３年に接木したミチノクナシは、順調な生育が確認された。

**〇移植作業**

・平成２５年は、直接改変を受けるエゾノリュウキンカを２箇所へ移植した。

・また、接木したミチノクナシは、一部の株を２箇所へ移植した。

**【審議結果】**

・今後、生育状況をモニタリングしながら、生育環境の改善を図っていく必要がある。

**〇特定外来生物の駆除**

・昨年に引き続き、特定外来生物（オオキンケイギク・オオハンゴンソウ）について、分布拡大を防止するために、可能な限り駆除を行った。

・オオキンケイギクは、確認地点数・株数が少ない傾向が続いているが、オオハンゴンソウは分布を拡大している可能性がある。

**【審議結果】**

・今後もモニタリングをしながら駆除していく。

**４．湿地環境の保全**

**〇ワークショップの活動**

・多様な動植物の生息環境として保全・整備を進める「湿地環境」について、自然環境に関心の高い地域の方々から成る「津軽白神湖ビオトープ ワークショップ」を立ち上げた。

・ワークショップでは、試行的に造成した湿地を活用しながら利活用について検討を進めた。今後は、将来の湿地環境の利活用・維持管理等を担う組織づくりを目指す。

**〇湿地環境モニタリング調査**

・試行的に造成した湿地等について、保全対象種を始めとする水生動物の生息状況の現況把握を行った。

・その結果、試行的に造成した湿地では、多様な水生動物の生息が確認された。

**【審議結果】**

・利活用・維持管理について検討を進める。また、今後の湿地整備に反映させるため、試行湿地のモニタリングを継続する。

**５．生態系（猛禽類）**

・平成２４年度に開催した津軽ダム猛禽類検討委員会での調査結果を報告した。

**６．フォローアップ調査計画**

**【審議結果】**

・今後のフォローアップ調査計画については了承された。